

令和元年度 第2回横浜市いじめ問題対策連絡協議会

(日 時)	令和元年 10 月 30 日 (水) 15 : 00 ~ 16 : 18
(場 所)	関内駅前第一ビル 2 階 205E 会議室
(出席者)	前原朝子、水野成夫、藁科文男、渡辺利通、岩間文孝、秋好直樹、小倉克彦、住田剛一 (代理出席：横浜市立城郷中学校長 青石哲也)、小間物晃弘、村山小百合、中澤智、 宮谷敦子、吉川正則 (代理出席：市民局人権課担当係長 北川隆範)、霧生哲央、前田崇司 15 名
(欠席者)	永木宏一郎 (1 名)
(開催形態)	公開 (傍聴者 0 名)
(議 題)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 協議 いじめ防止月間 (12 月) における取組について</li> <li>2 報告 平成 30 年度「暴力行為」・「いじめ」・「長期欠席」の状況調査結果</li> <li>3 その他 (1) ピンクシャツデー2020 in 神奈川について (2) 令和 2 年度 いじめ問題対策連絡協議会開催について</li> </ol>
(議 事)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育委員会挨拶 前田委員より挨拶</li> <li>2 会議録の確認 小間物委員に決定</li> <li>3 協議 いじめ防止月間 (12 月) における取組について (小倉会長) それでは、次第に従いまして、協議に進みます。 いじめ防止啓発月間における取組についてです。前回の協議会では、今年度の取組につ きましてご了承を頂きましたが、具体的な取組内容について事務局から説明をお願いします。 (事務局) 【資料 1 について説明】 (小倉会長) ご説明ありがとうございました。事務局から、12 月のいじめ防止啓発月間について説明が ありました。いろいろ御尽力ありがとうございます。内容につきまして、委員の皆様からご 意見等はございますか。この内容で進めていってよろしいでしょうか。 関係機関、団体、私たちが協力して、12 月の月間を盛り上げていきたいと思いを。一人 でも多くの方が、いじめと真剣に向き合って考える、そういう機会に出来るといいかなと思 います。</li> <li>4 報告 平成 30 年度「暴力行為」・「いじめ」・「長期欠席」の状況調査結果</li> </ol>

それでは報告に進みます。先日発表しました「平成30年度『暴力行為』・『いじめ』・『長期欠席』の状況調査結果」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

【資料2について説明】

(小倉会長)

ありがとうございました。事務局から30年度の調査結果について説明がありました。調査結果の傾向や子どもの状況なども少し見えたかと思います。皆さまからご意見やご質問等ございますか。

(渡辺委員)

横浜市子ども会連絡協議会の渡辺です。たくさんのお客様について、多くのデータを元にご紹介いただきありがとうございます。この中で、気になったところが2番目のいじめの認知件数です。何が気になったかという、資料の4ページで、調査結果について件数と構成比が出ていて、注目すべきところは、やはり先生方が30%見つけてくださったこと、それから、残念ながら、先生方ではなく教職員以外からの情報で発見したのがその2倍以上あったということで、これは実際悲しむことよりも、上手く連携が取れ始めたのかなということでも心強く思ったところでもあります。では何を心配しているかという、この事案で初期に解決した案件というものがどのくらいあるのか。発見のきっかけを数字で構成率を示していただきましたが、解決した事案がどのくらいの数字で挙げられるのか、そこを心強い情報としてお聞きしたいです。

(小倉会長)

これは解消率の話でよろしいでしょうか。

(事務局)

今ご覧いただいている資料の3ページの左下の「調査結果から」の部分で、解消状況についてもご説明したいと思います。小学校、中学校ともいじめの認知件数は増加していますが、年度内解消率ということで、この調査は平成31年3月31日の時点でどうだったかという状況を調査していますので、3月31日の時点では66.8%が解消に至ったという状況になっています。ただ、いじめが解消している状態というのは、資料一番下の点線囲みにありますが、こうした状況をもって解消とするという国の指針があります。解消している状況としては、いじめに係る行為が目安として3か月止んでいる、そして当該児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと、これを本人・保護者による面接等により確認できたときに解消という判断になります。年度内についてはこのような状況ですが、今回県の調査として令和元年7月19日時点で、その後どのような状況かを追跡調査しました。7月時点で、30年度内に解決していなかったケースから、さらに923件が解消できたと確認できました。それを加味すると、3月の報告時に挙がっていたいじめのケースは、7月時点では83.4%が解消に至っていることが確認できています。ただ、卒業した児童生徒については調査できないので、その件数については、3月時点の状況としてとらえていただければと思います。

**(渡辺委員)**

なるほど。地域だとか、学校内での人的な連携がどれだけ上手くいっているかは、この4ページの資料の調査結果からの学校の教職員が発見した部分で、解決しているのがどのくらいと、職員以外からの情報による発見が、どのくらいの確率で解決しているのか、そうでないのか、そこが気になります。もしわかればそういった統計も教えていただければありがたいと思います。以上です。

**(事務局)**

統計としては、クロスで集計できる状況にはなっていないところです。

**(渡辺委員)**

履歴と結果を結び付けられるような評価基準を設ければ出来るのではないかと思います。

**(小倉会長)**

ありがとうございます。担任が発見した場合と、それ以外の場合の解消率として数字はないのですが、現場の感覚としては、中学校はどうですか。

**(住田委員 代理：青石氏)**

今お話ししていただいた部分とそう変わらないと思ってまして、ありがたいことに、いじめが認知されるようになって、私たち教職員もそうですが、いろいろな情報が学校にも寄せられるようになって、情報が早く我々のところに入るようになりましたので、かなり事が大きくなってから情報が入ることに比べると、早期発見・早期解決といえますか、非常に解決率は高いというのが実際の印象です。なかなか教員だけの情報では限られてしまう部分もありますので、現場としては非常に助かっている状況があります。

**(小倉会長)**

私は小学校の教員ですが、やはり誰が発見しても変わらないというか、困っている子どもが困らないようにしていくというのが私たちの仕事なので、3か月以内に解消するケースもあるし、解消しなくて、学年をまたいでしまっても、ずっと追いかけて続けるという意味では、ここで認知することがすごく大事かなど。担任が変わっても学年が変わっても追いかけて続けるという体制は学校としては今出来てきているかと思っています。気持ちとしては100%解消しているというつもりで学校は対応しています。高等学校はいかがですか。

**(小間物委員)**

学校それぞれによって違いますが、基本的に認知件数は恐らく増えていると思いますし、解消に向けて学校で対策委員会を通じて取り組んでいます。ただ、後で言おうと思ったのですが、資料として、高等学校も特別支援学校も報告書を出しているのですが、高等学校の数字を載せてほしいと思います。他都市との比較という部分で作っている部分もあるかとは思いますが、高等学校にしても特別支援学校にしても、自分の学校の数は分かりますが、横浜市全体としてどのくらいの数なのかというのは、つかみたいというところで、職員も異動があつて、この学校はこういう子たちが多だろうというところも、やはり知らなくてはいけない

情報だと思います。事務局の方にできましたら、高等学校も含めたところに入れていただけたらありがたいと思っています。

(小倉会長)

ご要望ありがとうございます。それについてはここで回答するものではないですよ。

(事務局)

ご要望については、所管課に伝えてまいります。

(小倉会長)

特別支援学校は何かありますか。

(村山委員)

以前も違う会議で高等学校の数を特別支援学校としても是非入れていただきたいと。うちは高等部だけなので、高等学校段階の数が分かってこない、どういうところにいるのかということも含めて、確認できたらありがたいという話は、違う会議でも発言させていただきました。そもそも論として定義も含めて議論が出来るようになってきているというのは実感として感じます。うちは高等特別支援学校なので年々数は増えていますし、解消率等もきちんと出していると思っていますので、そのような状況です。

(小倉会長)

ありがとうございます。私の学校のことですが、学校運営協議会で、認知件数が増えた話をしました。良い意味で言ったつもりだったのですが、地域の方とPTA会長がすごく驚き、そんなに悪い学校なのかとおっしゃったので、まだまだ説明が足りない、そのような伝わり方にはなっていないと思いました。この会議では当たり前のように認知件数は増えるのはいいことだという話ですが、そこは本当に丁寧にやっつけていかなければならないと思っていますところ。秋好委員は保護者の代表としていかがですか。

(秋好委員)

今のお話は、正にその反応が帰ってくるというところでのお話です。私どもも、様々研修の機会を設けていまして、専門家の方からその認知件数が増えていることは、皆さんまずは肯定的にとらえてもらわないと現場が委縮してしまうという話はよくあり、いろいろな機会を通じてお伝えしていかなければいけないと考えているというのが、まず一点。もう一つ、これは単に私自身の保護者としての感覚と、いろいろ情報交換している中で聞こえてくる話から言いますと、本当に学校がいじめに対して、今、真摯に取り組んでいただいて、対応が早くなっているのではないかと声としてたくさん聞こえてきているのが一つ。あともう一つ、先ほどから、いじめの背景にコミュニケーションが上手くとれないという話が出てきていますが、その解消に向けて、子ども同士ではなくて、先生と子どもが、普段からそのいじめが起きていないかどうかに対して、アンテナを張る意味で、コミュニケーションを密にとっていらっしゃる例も結構あります。私が、最近聞いた例ですが、三者面談の場で親がいる前で、先生が子どもに対して、その子ども本人ではなく、第三者の出来事について、気になることがあるけどどう思うかと聞いて、それに対して、子どもは真摯に答える、私も気になってい

ると。だから子ども同士で、これ気になるからこれ以上エスカレートしないように、みんなでアンテナ張っていこうみたいな会話がされていると聞きました。こういう取組は非常にいいなと考えていますので、私も機会があれば、そういった話を保護者の中でもしていきたいと考えています。

(小倉会長)

そういう話を教員と保護者がもっとオープンにしていくということですか。

(秋好委員)

そうですね。先生がそうやって、保護者がいる前で、子どもも含めて話し合おうとしていらっしゃるということが僕はすごく大きなことだと思います。ということは、保護者の方は、何か自分が気になることがあれば、多分職員の方に、気兼ねなく相談できると思いますし、そういった雰囲気づくりみたいなところは、少しずつ上手くいっているのではないかと感じるところです。

(小倉会長)

ありがとうございました。学校の方に何かお聞きしたいようなことはありますか。今回の調査結果について、各機関、各団体で持ち帰っていただいて、今後のいじめの防止に向けた取組に生かしていただきたいと思います。

## 5 その他

### (1) ピンクシャツデー2020 in 神奈川について

最後のその他に進みます。ピンクシャツデーにつきまして、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

【資料3について説明】

(小倉会長)

ピンクシャツデーについて情報提供いただきましたが、ご質問、ご意見等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。ほかに皆さまから何かございますか。

少し時間に余裕がありますので、全体を通して、いじめ防止啓発月間の取組や先ほどの調査結果の報告等に触れていただいても構わないので、ご意見を頂けたらありがたいと思っていますのですが、いかがでしょうか。

(水野委員)

県警察本部の少年育成課の管理官と少年相談保護センターの所長をしています水野です。9月末の非行少年の概要について、傾向を皆さんに簡単にご説明したいと思っています。非行少年の検挙、補導の状況ですが、9月末で1,393人ということで、昨年同月比で347人少なくなっています。おおむね20%くらい少なくなっているということで、14年連続で今のところ減少しています。ただその中で一つだけ残念なことがありまして、薬物乱用の状況なのですが、薬物乱用少年が、平成元年9月末で58人、プラス19人ということで、その19人の中で大変な状況であるのが大麻です。今年はまだ既に51人検挙されていまして、プラス22人ということで、大麻の乱用が大変著しいという状況であります。噂によると、ネットで簡

単に買えるとか、暴力団がいろいろ安く青少年たちに回しているなど、いろいろな話があるのですが、本当に大麻の流通に歯止めが利かないという状況です。

あと、県下の警察が検挙した校内暴力事件の関係ですが、事件化したのが13人。うち対教師暴力が3人、生徒間が8人、ガラスを割ったり黒板を蹴って施設を壊したりというのが2人ということです。13人の内訳は、小学生が2人、中学生が9人、高校生が2人となっております。ご参考までにお願いします。以上です。

(小倉会長)

ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。

(藁科委員)

青少年指導員連絡協議会の藁科です。不登校の関係ですが、子どもの性格というか、学校や社会の仕組みなどに馴染めない、それが要因という場合もあり、民間のいろいろなスクールに通っている子どもたちがいると、新聞やテレビなどで紹介されています。一応、不登校の場合は再登校を前提で考えると思いますが、最近は再登校だけではないという考えに変わってきたと思います。先ほどの要因のところを見ると、今言ったように本人が馴染まないというような割合というのはどうなのか、すごく多いのか、半分くらいなのか感覚的でもけっこうですが、その辺はどうなのでしょう。

(小倉会長)

ありがとうございます。再登校ではなくて、社会的自立を目指しているという話だと思うのですが、その数や割合については、私どもは把握していないので、事務局で出せるものがあれば出していただきたいと思います。その前に、岩間委員は今の話に大きく関わってくださっていると思うので、お話ししていただけるとありがたいです。

(岩間委員)

今、私たちは横浜市内17団体のフリースクールが集まって協議会をやっているのですが、そこで各民間のフリースクールに通う子どもたちの状況というのは、よく意見交換をさせてもらっていて、どういう経緯でスクールに来たかというのは、本当に多様です。学校に馴染まないタイプもありますし、残念ながらやはりいじめを受けたと訴えてくる子もいます。あとは学校で、いろいろな問題があるので、一概に学校に馴染まないから来たという割合を出すのは難しいです。やはり行けるなら、学校に戻りたいという子も当然いますし、逆に学校ではなかなか自分が活躍出来る場を見つけられなくて、民間のフリースクールで活躍の場を見つけて、そこで自立を目指す子もいます。今までは、学校に戻る子どもだけが皆さんに認められていたところが、民間のフリースクールや学校外で社会的自立を目指す子どもも認められてきたということで、私たちとしてはすごく嬉しく思っている状況です。

(藁科委員)

割合としては少ないということですか。

(小倉会長)

もし情報があったら、前田委員の方からお話をお願いします。

**(前田委員)**

不登校については、教育をめぐる喫緊の課題ととらえています。お話があったとおり、法整備として平成 28 年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」いわゆる教育機会確保法という法律が出来まして、多様な学習活動を踏まえた個々の状況に応じた支援のもと、子どもたちの社会的自立をしっかりと見て、支援していくというスタンスになっていまして、その後の有識者会議を踏まえた上で出された指針の中でも、結果として今不登校になっているが、それは決して問題行動ではないというとらえと、誰もが様々な要因の中で、不登校になり得ること、そういったことをしっかりと向き合いながら、お子さんたちの様々なニーズに対応していくべきだという方針が出されています。そういったことも大事にしながら、学校の方も、丁寧に一人ひとりのニーズに応じた取組をこれからますます進めていかなければならないと思っています。岩間委員もおっしゃったとおり、様々な背景を抱えているお子さんたちは、不登校と言っても定義でいうと年間 30 日以上ということになります。なかなか来られないお子さんまで、いろいろなお子さんがいるので、その子の状況に応じた支援がとても大事になってくると思います。数の方は事務局から回答します。

**(事務局)**

先ほどの資料 2 の 6 ページに、不登校の要因と考えられる状況が、表 3-3 にあります。分類として、あくまで学校サイドの見方であることを前提としながら確認していければと思います。分類としてどんなタイプがあるかというところ、例えば、「学校における人間関係」に課題抱えているお子さんは 4,978 人のうち 20.6% くらい、1,026 人です。漠然とした「不安」の傾向があるというところでは 36.8% のお子さんがいます。右側をみると、お子さんがそれぞれどういった要因状況が考えられるかというところで、複数選択になります。友人関係に不安を感じている部分もあるのですが、結果として、学業の不振ということで通いにくくなっているお子さんが割合としては高いです。また「家庭に係る状況」に実は十分な支援が得られていないかもしれない、不安があるかもしれないお子さんも要因としては高いと思います。先ほどから話題になっていますが、人間関係で、いじめも、いじめではないものも含めというところで、友人関係のところ、こう不安になって集団の中になかなか馴染めないとか、入れないとかそういったお子さんもいるかもしれないというところで 37% くらいのお子さんが全体の中で割合として当てはまるのではないかと受け取っているところです。あくまで複数選択ですのでどちらも当てはまるというお子さんがいます。そういう意味ではたった一つの要因というよりは、本当に複雑な要因で、先ほど岩間委員の方からお話があったのですが、そういったところと言えるところで考えています。

**(藁科委員)**

ありがとうございます。

**(小倉会長)**

ほかにいかがでしょうか。

(秋好委員)

先ほど私が発言したところで、多分言葉足らずのところがあったかと思い、補足の時間をいただきます。三者面談の話で、学校の先生から生徒にヒアリングが入ったというのは、本人ではないAさんとBさんとがふざけ合い楽しんでいる、いじり合いだそうです。恐らくそういうのが、ちょっとエスカレートして発展して、誰かが仲間をつけて、2対1、3対1になって、いじめに発展する可能性があるのではないかというアンテナを張っているという話でした。先生としては、既にこれはほぼいじめだと思えば当然問題として挙げているのですが、そうではなくてお互いに楽しそうにやっているという事に対して、現場ではアンテナが張られつつあるという話でした。

(小倉会長)

ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。

(岩間委員)

先ほどもちょっと話が出ていたのですが、フリースクールにも、いじめられたということで訴えてくる方もいると。横浜市ではないですが、先日、学校で人ににらまれていると訴える子どもと保護者がいました。この場合、学校の先生が言うところでは、その子はにらんでいないということでした。私はずっとフリースクールで活動している時に大切にしてきたのですが、事実と真実は違うということで、本当ににらんでいるか、にらんでいないかという事実は一個だけですが、多分真実というのは、にらんでいない方も本当ににらんでいないのかもしれないし、にらまれたと言う人は確実ににらまれたと言うので、それぞれに真実があるという様な話をして、是非にらまれたという子が、でもあの子にらんでいないと言ったよとしてしまうと離れてしまうから、と言って、そこのフリースクールに繋げて帰ってきたわけです。実は、後日、あるフリースクールに行くと似たようなケースで、にらまれた、にらんでないという事で、フリースクールの先生が、でもあの子はにらんでないよと言っているのを見て、すごくドキッとしたということがありました。フリースクールにはやはり傷ついてくる子どもも多くいるので、この学校の対応についてはフリースクールの職員にも、いじめの感覚というのをもう一度研修等で徹底したいと感じた例がありましたのでご報告させていただきました。

(小倉会長)

ありがとうございます。普段から職員の皆さんには研修みたいなものがあるのですか。

(岩間委員)

今はそれぞれの研修に任せているところがあったので、今後は協議会全体で研修をやりたいと考えました。

(小倉会長)

連携していかなければいけないというところですね。

(岩間委員)

はい。



(小倉会長)

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。事務局の方は何か付け足すことはありますか。もしなければ、事務局より令和2年度の日程について説明をお願いします。

(2) 令和2年度 いじめ問題対策連絡協議会開催について

(事務局)

【資料4について説明】

(小倉会長)

今の説明につきましてご質問がありますか。ほかにもしご発言があればお聞きしますが、よろしいですか。

(渡辺委員)

ピンクシャツデーの取組は、なかなか良いアイデアではないかと思うのですが、このカナダのピンクシャツの物語は、小学校ですか、中学校ですか。

(事務局)

高等学校です。

(渡辺委員)

高等学校ですか。ありがとうございます。当然、ネットに出ていますよね。調べてみます。ありがとうございます。

(事務局)

もしよろしければ、東高等学校のお子さんがすごく丁寧に調べてくれたものがあるので、それをお渡しします。

(渡辺委員)

ありがとうございます。

(岩間委員)

今度いじめ防止市民フォーラムのチラシを送っていただくと思うのですが、もし可能であればこのピンクシャツデーのポスターをいただけたらありがたいと思います。

(事務局)

それぞれの団体ということですか。事務局の方で確認させていただきます。よろしいですか。

(岩間委員)

お願いします。

(小倉会長)

ありがとうございます。それでは、ほかにご発言がなければ、進行を事務局の方にお返しします。

6 事務連絡

	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止市民フォーラムへの周知協力依頼</li> <li>・令和元年度いじめ問題対策連絡協議会各団体・機関の取組内容の確認依頼</li> </ul> <p>〈閉会〉</p>
(資 料)	<p>令和元年度第2回 横浜市いじめ問題対策連絡協議会 次第</p> <p>(資料1) 令和元年度「いじめ防止啓発月間(12月)」実施要項</p> <p>(資料2) 記者発表資料『平成30年度「暴力行為」・「いじめ」・「長期欠席」の状況調査結果(小中学校)』</p> <p>(資料3) ピンクシャツデー2020 in 神奈川</p> <p>(資料4) 令和2年度いじめ問題対策連絡協議会 年間予定</p>